

米国企業業績の動向と株式市場

作成日 2019年5月15日

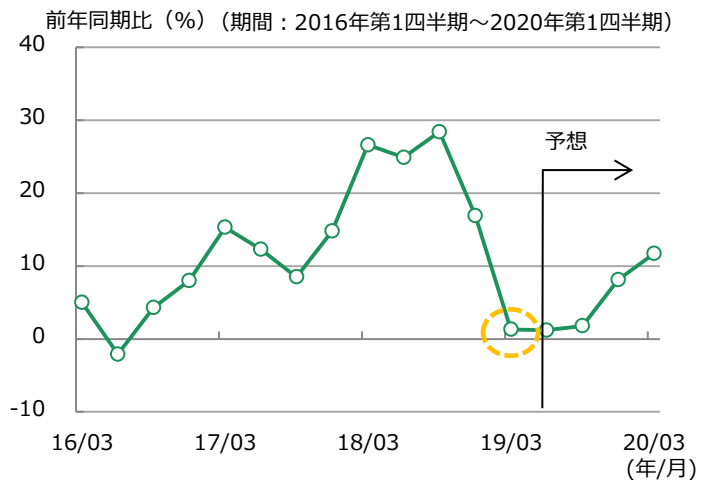
米主要企業の2019年1-3月期決算は小幅な増益となり、業績悪化懸念は和らぎました。

- S & P 500種採用企業の2019年1-3月期の決算発表では、小幅ながら増益となっています。
- 業種別では、「ヘルスケア」や「金融」において高い増益率となりました。「情報技術」においては、市場予想を上回る決算が相次ぎ、業績悪化懸念は和らぎました。
- 今後は、米中通商交渉の動向を注視する必要がありますが、市場予想に沿った企業業績の回復が確認できれば、株式市場は一定程度下支えされる見込みです。

全体の増益率は、前年比で小幅ながら増益

- S & P 500種採用企業の約9割が2019年1-3月期の決算発表を終え、前年同期比+1.3%と小幅な増益となりました。(5月10日時点)
- 事前に業績悪化が想定されていたこともあり、増益率の実績がアナリスト予想を上回った企業の比率は約75%となり、過去の長期平均(65%)を大きく上回りました。
- 一方で、業績の伸びを抑えた要因としては、多くの企業がドル高による輸出への悪影響や賃金上昇によるコストの上昇などを挙げています。

S&P500種採用企業のEPS(一株利益)推移と予想



業種別では、「ヘルスケア」、「金融」が好調

- 業種別では、「ヘルスケア」が前年同期比+10.1%、「金融」が前年同期比+8.1%とそれぞれ高めの増益率となりました。
- 一方で、「エネルギー」が前年同期比▲26.1%と大幅な減益となりました。2018年10月から12月にかけての資源価格の大幅な下落の影響が残り、業績が悪化しました。

S&P500種 業種別増益率 2019年1-3月期

○上位3業種

業種名	増益率
ヘルスケア	+10.1%
金融	+8.1%
一般消費財	+7.4%

●下位3業種

業種名	増益率
エネルギー	▲26.1%
素材	▲14.0%
コミュニケーション	▲9.9%

出所: リフィニティブ(5月10日集計時点)のデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

今後の緩やかな業績改善に期待

- 株式市場は、事前の予想よりも底堅い決算内容となったこと、今後の緩やかな業績回復が見込まれていることなどから、4月の決算発表期間中は比較的堅調に推移していました。ただし、5月に入ってから米中貿易摩擦への懸念が再燃したため、下落に転じています。
- 今後は、米中貿易摩擦問題は懸念材料として注視する必要がありますが、中国の景気刺激策や主要中央銀行の金融引き締め姿勢の後退などが世界景気の追い風となります。市場予想に沿った緩やかな企業業績の回復が確認できれば、株式市場は一定程度下支えされる見込みです。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。

●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。各主体は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任はありません。

《米国主要企業の2019年1-3月期業績》

企業名 (ティッカー)	業種	予想EPS(ドル)	実績EPS(ドル)	予想との比較 ※2
マイクロソフト(MSFT)	情報技術	1.00	1.14	○
フェイスブック(FB) ※1	コミュニケーション	1.63	1.89	○
アマゾン(AMZN)	一般消費財	4.72	7.09	○
アルファベット(GOOG)	コミュニケーション	10.48	9.50	×
エクソンモービル(XOM)	エネルギー	0.72	0.55	×
アップル(AAPL)	情報技術	2.36	2.46	○

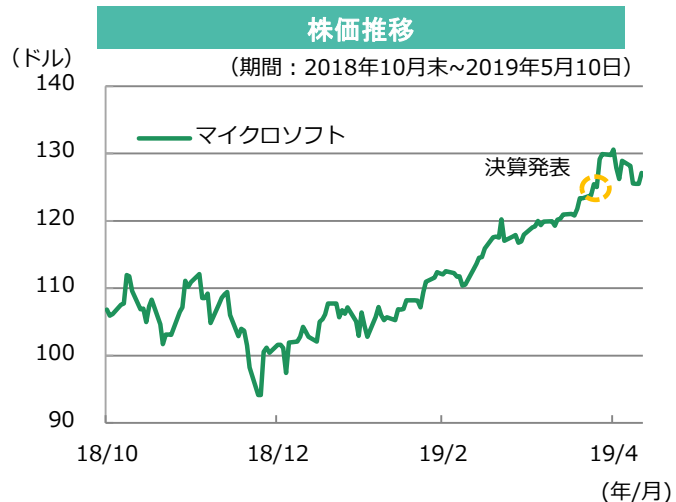
※1 個人情報問題を巡る米連邦取引委員会 (F T C) による制裁金に備えた30億ドルの準備金を除いたベース

※2 実績EPSが予想EPSを上回った場合は○、下回った場合は×

出所：リフィニティブのデータおよび各種報道を基に明治安田アセットマネジメント作成

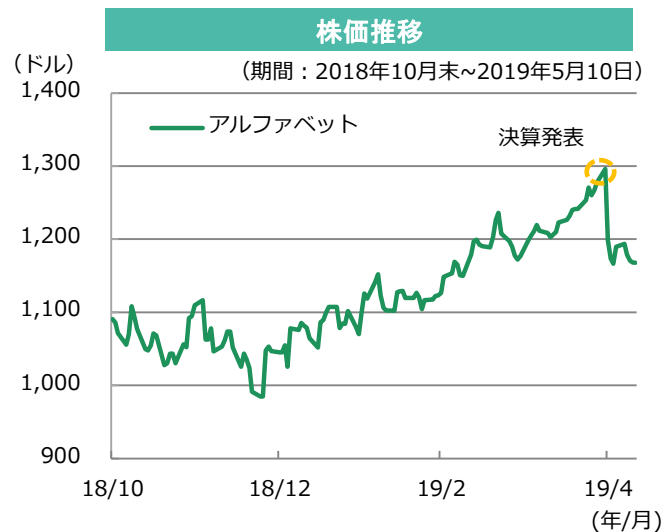
■ マイクロソフト (ティッカー：MSFT)

- マイクロソフトの2019年1-3月期決算は、EPS（一株利益）が1.14ドルとなり、アナリスト予想（1.00ドル）を大幅に上回る好決算となりました。
- ゲーム事業の増益率は鈍化したものの、クラウド事業やパソコン用基本ソフト（OS）「ウィンドウズ」の収益拡大が好決算につながりました。
- 決算発表後は、引け後の時間外取引で株価は大きく上昇しました。



■ アルファベット (ティッカー：GOOG)

- グーグルを傘下に持つアルファベットの2019年1-3月期決算はEPSが予想10.48ドルに対し9.50ドルとなり、アナリスト予想を大きく下回りました。
- 広告事業の競争激化やスマートフォン事業の不振などが響き、苦しい決算となりました。
- 決算発表後は、引け後の時間外取引で株価は大きく下落し、その後も軟調な展開となっています。



※上記の個別銘柄への言及はあくまでも例示をもって理解を深めていただくためのものであり、個別銘柄の推奨または投資勧誘を目的としたものではありません。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。

●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。各主体は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任はありません。